



が大へんめずらしがられたし、まじめな学習ぶりだったので、親切にされ、落第点だけはとらずにすんだ。こうして、新しい科学の勉強に燃やす健次郎の熱意には、まわりの人びとは驚き、感心した。健次郎にとつて、今まで考えたこともなかった、自然科学のすべてが驚きであり、神秘でさえあった。この一つを解決していく喜びに、健次郎の胸は高鳴り興奮の毎日が過ぎた。

大学も、あと一年半で卒業というとき、日本から突然帰国命令が出た。外国への留学生が多すぎて、お金が大へんなので、留学生の数をへらそうという、日本政府の方針なのである。健次郎は困ってしまった。せつかくわかりかけてきた科学の世界なのに、このままでは、今まで努力してきたすべてが無駄にな